

7月15日開催、第152回砂利船部会議事概要

当日、神戸市・生田神社会館において、藤井会長 原田担当副会長(後刻臨席)・寺岡副会長 藏本副会長 村田副会長 臨席の下、標記部会を開催し、概要以下の通り審議した。

尚、本部会は新委員による最初の部会であることから部会長選出までの間、事務局にて議事進行を行った。

1. 部会役員を選出について

事務局は部会長選出について諮った処、出席委員より前年度に引き続き松田委員をとの発言があり、審議の結果 満場一致で松田紀道委員を選出し、承認された。
(敬称略)

部会長 松田紀道 (千葉) (重任)

松田部会長は議長に就任するとともに、副部会長を以下の通り指名し、満場一致で承認された。

(以下敬称略)

副部会長	小田徳彦	(東海)	(重任)
〃	安積保夫	(兵庫)	(〃)
〃	岡田章一	(中海連)	(新任)
〃	坂崎誠一	(四海連)	(重任)
〃	大坪政治	(九海連)	(〃)

以上 5名

2. 平成27年度、部会活動方針について

議長は本年度部会活動方針について、出席委員より発言を求めた後、以下の発言があった。

- ・砂利船における船員不足問題は他船種に比べても非常に切迫しており、新たな人材の発掘、及び若年船員育成に向けての公的助成を含めた対応が必用である。
- ・砂利船については、船舶の老齢化も際立つ中で、建造に際しての公的助成も視野に入れた何らかの対応の検討も必用である。

議長は、砂利船による海上輸送がダンプカー等陸上輸送に比較して環境問題・安全問題の面からも優位性を有することを、各地区においても更にP. Rする等行う中で、各地域での補助金獲得を図っていく等 事業者としても努力を行う必用もあると思われる旨述べた。

また 砂利船業界が抱える諸問題については、全海運の事業計画に包含されていることから、本年度の部会活動方針としては 同事業計画に沿って活動することとしたい旨提案し、了承された。

3. 諸法制見直し検討委員会委員の選出について

議長は 砂利船・輸送・船主の3部会委員によって構成される本委員会の委員選出について諮った処、出席委員より各地区毎に異なる問題もある中で、従来の3名にこだわらず 選出すべきとの発言があった。

種々論議の後、議長は臨席の藤井会長、原田担当副会長とも調整を行い、1名増員した上で 以下の通り委員を選出した承された。

本件については、後日開催の理事会に報告上程の上、承認を得ることとした。

(敬称略)

委 員	渡 辺 村 一	(中 海 連)	(重 任)
〃	安 積 保 夫	(兵 庫)	(〃)
〃	橋 本 隆 志	(四 海 連)	(新 任)
〃	大 坪 政 治	(九 海 連)	(〃)

以 上 4 名

4. プッシャーバージワーキンググループの取り扱いについて

議長は 当部会に設置されている本ワーキンググループがプッシャーバージの平成30年問題（プッシャーとバージを既存船についても一体として総トン数等計測）への対応について審議検討を行ってきた旨述べるとともに、前回部会（平成26年11月25日開催、第151回砂利船部会）において、一部委員の納得は得られなかったものの当部会としては結論を得たことに鑑み、本ワーキンググループの廃止を提案した。

種々論議の結果、本ワーキンググループが所期の目的を達したことから、廃止することが了承された。

5. 平成28年度以降の暫定措置事業について

事務局は、平成28年度以降の暫定措置事業実施細則が総連合会で決定したことに伴い、資料に基づき変更点等を中心に説明を行い、了承された。

また併せて 総連合会が実施する各地区での説明会について、参加方を要請した。

以上で当日の全議題を終了し、議長は閉会を宣した。

以 上